大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

投稿規定, 原稿執筆要領

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-08-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/11103

投 稿 規 定

(2003年7月 作成，2005年12月 第3改訂)

1 概要

「Journal of Rehabilitation and Health Sciences (JRHS)」(以下，本誌) は，リハビリテーション・健康科学およびその周辺領域に関する研究論文や教育論文などを掲載し，当該領域および総合リハビリテーション学の発展に寄与するため，大阪府立大学総合リハビリテーション学部紀要委員会のJRHS編集部 (以下，編集部) が編集する．

2 投稿資格

(1) 本学部の教員
(2) 編集部が適当と認めた者

3 原稿の執筆と種別

原稿は別掲の原稿執筆要領にしたがって日本語あるいは英語で執筆する．種別は『総説』，『原著』，『短報』，『速報』，『報告』，『解説』，『講座』など (種別の概要参照) とし，未発表のものに限る．ただし編集部の判定により種別の変更を求める場合がある．また，招待論文などを掲載することもある．

英文論文や抄録 (英文) を含む場合は，内容のわかるネイティブスピーカーが校閲したものを受け付ける．

種別の概要

総説：興味深い最新の科学的知見について総合的に論じたもの，または著者の研究成果を中心に総合的に論じたもの．

原著：独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究で完成度の高いもの．

短報：独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究であるが，断片的な研究であってよい．

速報：独創性あるいは役に立つ情報が含まれている研究で緊急性を要するもので，断片的な研究であってもよい．この内容は，本誌あるいは他誌へ完成度の高い原著論文として公表してもよい．

報告：以下のいずれかの内容のもの．
(1) 役に立つ研究手法・技術の工夫や開発
(2) 資料的価値のあるもの
(3) 講演などの記録や講演の内容などを中心にまとめたもの
(4) 種々の研究費を受けた場合の研究成果報告書
(5) その他

解説：興味深い科学的知見や技術について解説し，教育的内容を含むもの．

講座：興味深い科学的テーマについて連続して解説し，教育的内容を含むもの．また，本学が中心となり開催した公開講座などの内容をまとめたもの．

4 ヒトを対象とした研究や動物実験に関する倫理基準

ヒトを対象とした研究の場合は，ヘルシンキ宣言 (1964年採択，2000年改訂) の倫理基準に従う．動物実験の場合は，文部省 (現文部科学省) の策定したガイドライン (「大学等における実験動物について」，文学情　第141号，1987年) に従う．

5 原稿の提出

投稿者はハードコピー原稿3部 (2部はコピーでよい) とデジタル原稿1部を編集部 (下記住所) へ提出する．編集部は投稿原稿を受け付けたのち投稿者に受付通知書を発行する．

6 審査および査読制度

投稿原稿の受理ならびに訂正については，編集部が定めた査読者 (原則として2名以上) の意見をもとに編集部で決定する．

7 著作権

本誌に掲載されたものの著作権は大阪府立大学に属する．

8 経費負担

掲載料などの費用は原則として無料とするが，超過分は編集部の議を経て定める．

原稿提出・原稿執筆要領請求先：
〒583-8555
大阪府羽曳野市はびきの3丁目7番30号
大阪府立大学総合リハビリテーション学部
紀要委員会　JRHS編集部
(jrhs@rehab.osakafu-u.ac.jp)

原稿執筆要領

(2003年7月 作成，2005年5月 第3改訂)

1 一般的注意

1.1 原稿の長さは原則として刷り上がり10ページ以内とする．

1.2 原稿はワープロソフト (編集の都合上 Word®, Microsoft を推奨) で作成する．Macintosh®で作成したデジタル原稿は，必ず DOS/V 機で使用できるフォーマットの記録媒体 (FD や MO など) で投稿する．A4 判白地用紙を縦長にして，上下左右に約 3 cm の余白をとり，ダブルスペース，10-12ポイントでハードコピーを作成する．

1.3 和文の場合は，句読点を "." と "," にする．英文の場合は，アメリカンスタイルとする．

1.4 図 (写真)，表の挿入希望位置は原稿左側余白に赤字で記入する．

1.5 字体の指定 (イタリック，ボールドなど) や JIS 外字などを用いた場合はハードコピーに赤字で指示する．

1.6 図 (写真)，表なども含めて全ページに通し番号を原稿の下中央に入れ，表紙を第1ページとする．

2 表紙

2.1 表紙には，和文で種別，表題，著者名，所属，住所を，次に英文で表題，著者名 (フルネーム)，所属，住所を記入する．連絡著者にはダガー (†) を付ける．英文論文の場合は，種別のみ和文とする．

2.2 Key words は原稿の内容を的確に表現しうる3-6個の単語または句を選び，2.1の後に記入する．これらの単語 (句) はセミコロンで区切る．

2.3 編集部との連絡のために，和文で連絡著者名，連絡住所，電話番号，Fax 番号，E-mail アドレスを表紙末に記入する．さらに，英文論文や抄録 (英文) を含む場合は，英文チェック済みであることを示すために，チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) を記入する．2.3のうち E-mail アドレス以外は刷り上がり時には記載されない．

3 抄録

3.1 抄録は英語で執筆する．語数は300語以内とし，原稿の第2ページに記入する．

3.2 和文論文：原著には抄録を付ける．短報，速報，その他の種別の論文にも抄録を付けることが望ましい．

3.3 英文論文：原著には抄録を付けるが，短報や速報には付けない．その他の種別の論文は必要に応じて抄録を付けてもよい．

本執筆要領は主として自然科学系の原稿を対象にしたものである．人文科学系の原稿で本執筆要領に従うことが部分的に困難な場合は，編集部に相談する．

4 本文

4.1 本文は第3ページから始める．抄録を付けない場合は第2ページから始める．

4.2 本文は原則として，序文 (はじめに)，方法 (材料と方法)，結果，考察，結論 (むすび)，謝辞，文献の順に記す．結果と考察の内容をまとめて結果および考察としてもよい．見出しのレベルはポイントシステムで示す．すなわち，

1 大見出し
1.1 中見出し
1.1.1 小見出し

とする．また，「小見出し」以降，および「箇条書き項目」などについては，(1)，1)，①の順に用いる．

4.3 本文中で脚注 (備考や注釈など) が必要な場合は，アステリスク (*) を語句の右肩に付け，原稿の同一ページの下部にその説明を記入する．脚注と本文を区別するには，1行の横線を利用する．

4.4 記号と符号は国際的に慣用されているものを，また単位は原則として SI 単位 (国際単位) を使用する．なお，当該領域において使用が認められている特殊な単位は使用できる．

4.5 略語は初出時にスペルアウトし，その直後の ( ) 内に示し，以下その略語を用いる．

4.6 英文論文の場合も，上記に準ずる．

5 文献

5.1 引用文献は，本文中では引用する箇所の右肩にアラビア数字で上ツキの通し番号 ([1], [2,3], [1,6-10]) をつけ，文献欄に引用順に一括掲載する．本文中に著者名を引用する場合は，混乱の起こらない限り姓のみとする．

5.2 私信，未発表結果，投稿中の論文，新聞記事，パンフレット，単なる報告書などは文献欄に入れず，本文中に括弧に入れて引用する．

5.3 文献欄における引用文献の略し方は，Biological Abstracts, Chemical Abstracts, 科学文献速報の用例に従う．

5.4 文献欄における著者名は著者全員を記載する．ただし多数の著者で書かれた文献を引用する場合は，第3著者までを記載し，第4著者以後の著者を，和文の場合は "ほか"，英文の場合は "et al." で略してもよい．

5.5 文献の書き方を以下に示す．原則として ICMJE (1997) Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedial Journals. N Engl J Med, 336:309-315 の勧告を取り入れる．

5.5.1 学術雑誌の場合

1 喜多嶋康一 (1992) 慢性骨髄性白血病の治療．栄食誌，36:156-159.

2 松本茂樹，辻薫，岸良至 (1994) 作業療法での床上姿勢を考える－小児領域の立場か．OT ジャーナル No.2:169-174.
〔注：号の使用は通しページのない雑誌に限る〕

3 Davis AD, Bax A (1985) Analysis of metal compounds found in soil sample. J Am Chem Soc, 107:7197-7200.

4 Gowland C, de Bruin H Jr, Basmajian VJ (1992) Agonist and antagonist activity during voluntary upper-limb movement in patients with stroke. Phys Ther, 73:642-633.

5 羽曳野太郎，羽曳野花子 (1952) 日本人の常用食品の消化吸収率に関する研究 (第 4 報) 椎茸について．栄養と食糧，5:176-179.

6 Habikino T, Habikino H (1988) Studies on digestibility of daily food intake in Japanese (Part 4) Horse mackerel and milk. Jpn J Hyg, 40:23-29.
〔注：5，6 は大題目と副題目のある場合〕

5.5.2 書籍の場合

7 岩内亮一 (1993) “社会問題の心理学”，学文社，東京，p.57-60.

8 Turner EH, Smith DE Jr (1964) “Enzymes,” 2nd ed., Academic Press, New York, p.108-115.

5.5.3 編者がありまた多数の著者で書かれた書籍から特定の文献を引用する場合

9 金子丑之助，山田始 (1985) 視神経の観察，“日本人体解剖学” (山村雄一，古賀真一編)，第 3 巻，南山堂，東京，p.100-127.

10 CR Jr (1994) Monoenoic acids, “The Lipid Handbook” (Padley FB, Gunstone FD, editors), Chapman & Hall, Cambridge, p.80-95.

5.5.4 訳本の場合

11 Kielhofner G (1992) “Conceptual Foundations of Occupation Therapy” (Davis FA, editor), 1st ed., Academic Press, New York. ［山田孝，小西紀一訳 (1993) “作業療法の理論”，三輪書店，大阪，p.13-94.］

5.5.5 報告書・学会発表講演要旨集の場合

12 菅野道広 (1988) 加工油脂に含まれるトランス型不飽和脂肪酸の栄養生理機能解析，昭和60年－62年度文部省科学研究費補助金 (総合研究 A) 研究成果報告書，p.1-60.

13 相原茂一，二宮扶実子 (1994) 小麦粉に対する高圧電場処理と水の影響，第33回日本栄養・食糧学会近畿支部大会講演抄録集 (大阪)，p.36.

5.5.6 掲載決定の通知を受けた投稿論文を引用する場合

14 喜多嶋康一 (1996) 慢性骨髄性白血病の治療．栄食誌，印刷中.

15 Yamazaki S (1996) NMR analysis of isotope-labeled amino acid tracers. Biosci Biotech Biochem, in press.

5.5.7 特許の場合

16 山岸喬，早川一蔵 (1966) 特許公告，昭和 41-730.

17 Bishop CE (1973) US Patent, 3, 770, 782.

5.6 英文論文の場合も，上記に準ずる．

6 図 (写真)，表

6.1 図 (写真)，表は原則として電子データとする．写植は行わず原図をそのまま版下に使用する．写真は電子データとすることが不可能な場合は，鮮明なものを，A4 判相当の厚紙に貼り付ける．

6.2 図 (写真) のタイトルと説明文は，本文の最後に一括してまとめる．

6.3 図 (写真)，表には，それぞれアラビア数字で一連の通し番号を付け (Fig. 1，Table 1)，本文中で引用する場合は，Fig. 1，Table 1 のように書く．

6.4 他文献から図 (写真) を転載する場合は，その転載許可を著者の責任において取得しておく．

6.5 英文論文の場合も，上記に準ずる．

7 校正

7.1 印刷物の校正は著者が行う．その際，印刷上の誤り以外の字句の訂正，挿入および削除は認めない．ただし，編集部が特別の事情があると認めた場合は許可することがある．

7.2 校正時には原稿を添付しないので，最終原稿のコピーを手元に保存しておく．